



[Teeta]



財団法人 北海道埋蔵文化財センターだより
第8号

「テエタ」

「テエタ」アイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



白滝村上白滝8遺跡の接合資料（旧石器時代 中央長さ31cm）

左、中央、右が重なって接合する。幅の広い尖頭器が作る途中でほぼ半分に分れ、上側の破片から舟底形石器が作られている

- 3次元パズルの石器接合作業－白滝遺跡群の整理事業から－……………2
- 平成13年度発掘調査一覧……………6
- 平成13年度発掘調査遺跡……………7

○3次元パズルの石器接合作業－白滝遺跡群の整理作業から－

平成7年から始まった黒曜石の原産地である白滝遺跡群の発掘調査では、7年間で365万点、重量約8 tの石器が発見されました。出土した石器類は、今から25,000～10,000年前の後期旧石器から縄文時代にかけてのものです。形の整った石器には、木の葉の形をして槍先やナイフとして使用した尖頭器、彫刻刀のように骨や木を削った彫器、獣の皮をやわらかくしたり、脂を削ぎ落とす時に使用した搔器や削器、穴を開ける時に使用した錐形石器などがあります。しかし、それらは全体のおよそ0.7%、25,000点ほどで、大部分は石器を作る時に出る剥片・碎片と呼ばれる大小の石片です。

白滝での石器製作の様子を知るためには、この大小の石片が大事なのです。発見された石器は水洗後、遺跡番号、出土した発掘区、遺物番号を注記し、重量を測り、特徴を観察、つまり名札を付け、身体検査をして接合作業にはいります。ジグソーパズルであれば2次元の平面的なもので、さらに全てのパーツが揃っています。しかし、石器は3次元、上下左右に前後が加わり、また、どの程度の破片が残っているかも不明で、答えが無いに等しいのです。



接合作業 各自が担当の石を自分の前に並べる



並べられた接合資料
写真撮影準備のために研修室に並べられた上白滝8遺跡の「黒曜石3」と「黒曜石4」の接合資料



上白滝8遺跡の各種石器



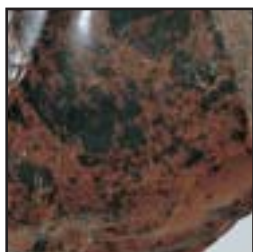
黒曜石 1



黒曜石 2



黒曜石 3



黒曜石 4



黒曜石 5

色と特徴で分けられた 5 種類の黒曜石

白滝の整理事業では、黒曜石を色や特徴から 5 種類に分け、さらに縞や網目模様などを目安に同じ原石を探していきます。灰色や白色が混じりますが、基本的に黒色のものを「黒曜石 1」、俗に梨肌と呼ばれ、気泡が入り表面がザラザラして光沢が鈍いものを「黒曜石 2」、黒色に茶色が混じるものを「黒曜石 3」、逆に茶色が多く、それに黒色が混じるものを「黒曜石 4」、そして黒色に紫に近い茶色が混じるものを「黒曜石 5」としています。黒曜石は一般的に黒色と思われがちですが、色、つや、模様など様々なものがあり、石器によっては、茶色の石を意識的に選んで作っている場合も見られます。



表紙の接合資料 右側のコンテナが表紙の接合資料、さらにそれに左側の手に持っている中身の尖頭器が持ち出された中空の接合資料が接合する



愛称「ゴジラ」の超大型接合資料(上白滝 8) 長さ 50cm、大型の尖頭器を作っているが、中身がない中空の状態



大型原石の接合資料(上白滝 8) 川原にある大型の原石を遺跡に持ち込み、石器作りが行われている

土器の接合は、現在でも日常的に使用している鍋や食器をイメージして破片を探すことができますが、石器の場合は、石を割ることなど石器作りの様子をイメージすることが困難です。しかし、石の模様、つやなどを頼りに探していくと同じ石が見えてくるもので、1日に1点か2点しか接合できない時もありますが、接合しだすとウソのように次々と塊が組み上がることもしばしばです。現在 25 名ほどの女性スタッフで接合作業を行っていますが、その人たちの細かな観察力と感覚、そしてそれらにわれわれ調査員の考古学的な知識や経験が加えられて接合作業が進んでいきます。おそらく数百万点の石器を相手にして接合作業を行っていることも、そしてこれだけのスタッフで石器接合を進めていることもわが国ははじめ世界でも類をみないのではないかと考えています。



奥白滝 1



上白滝 2



上白滝 2

回転台にセットされた接合資料 実測図作成のために四面(正面・右側面・裏面・左側面)展開の写真撮影を行う。立たせることが困難なものは、横位置に置く

接合して組み上げたパズルは「接合資料」と呼ばれ、石器を作った人々の技術、考え方、生活、そして行動の様子までも知ることができるのです。どのような大きさ、形の黒曜石の原石を選び、どのようにしてどんな石器を作ったのか。時には試し割をしてから、また、持ち運びやすい大きさに荒割してから遺跡に持ち込み、石器作りを始めているものもあります。また、どこをどのように叩いて素材を取り、石器に加工したか、また、失敗して折れてしまったか、などが分かるのです。白滝での石器作りは、大型の原石が比較的手に入り易いため、ぜいたくに石を使っています。その分、石器作りへのこだわりが随所にみられます。思うような石器が出来上がった場合は、どこかへ運び出されたとみられ、作った時の石片のみが接合した中空の接合資料となっています。鯛焼きに例えると、皮だけでアンコがない状態です。また、途中で折れたり、思うように出来なかったものは、遺跡に残され、時を経て発掘されるのです。



各種の接合資料 (大きさ 1/2)

大きさ29×20×7cmの粗い加工の大型素材が二つに割れ、さらにそれぞれ加工が進み、いずれも思い通りに出来がり、長さ20cmほどの尖頭器が持ち出されている（上白滝5）



大きさ35×23×9cmの板状の原石から長さ30cm、幅12cmほどの尖頭器が作られ、持ち出されている（上白滝5）

中空の接合資料（大きさ2/5）

石器はハンドメイドなので、二つとして同じものはありません。しかし、同じ割り方や素材の選択、形や作り方の特徴などから同じ技術を持った人々、または極めて近い関係の人々などを探ることが可能です。さらに詳しく観察すると石器作りに使用された道具、さらに名人級から初心者まで、作り手の腕前なども見分けられる場合もあります。また、破片の出土位置を検討すると、製作、使用、再加工の場所などが明らかにでき、さらに石器や素材の移動、または場所を移動した作業の様子などが分かります。現在白滝では、数十m離れて発見された石器が接合する例は多数見られ、最も離れたものでは、沢を挟んだ別の遺跡の石器が接合したものがあります。その距離は直線で350mほどです。

骨や木などの有機質の遺物が残りにくい日本の土壌環境では、旧石器時代の人々の生活を探ることができる遺物は限られています。その中で石器は全国各地で発見され、比較検討することが可能な遺物です。そして接合資料は石器作りの様子を再現フィルムのように具体的に語ることができ、石器の作り手、使い手、そして一緒に生活している人々や技術・情報を共有している人々などを探ることが可能な「情報の缶詰」といえます。

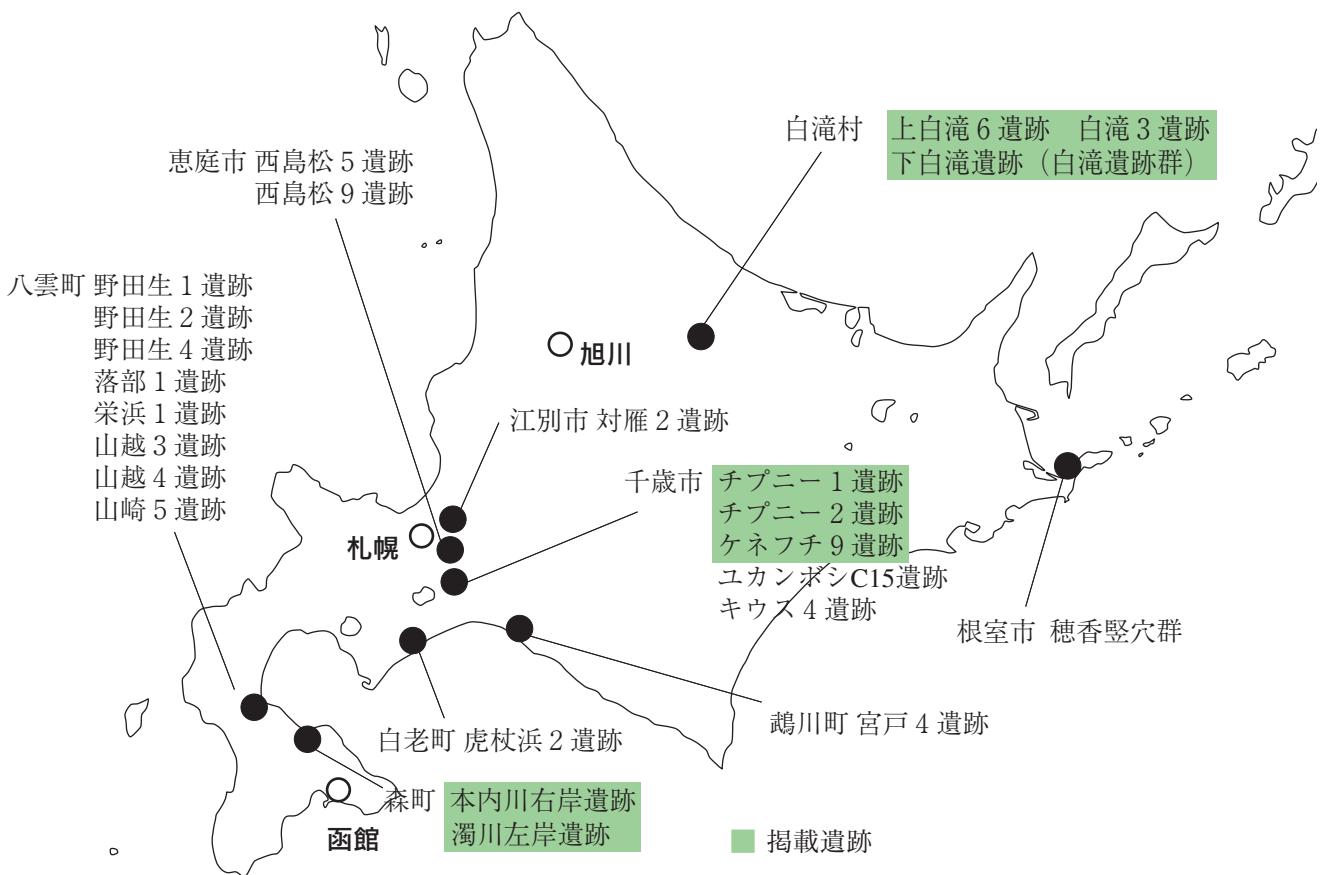
今日も白滝遺跡群の作業室では、物言わぬ黒曜石の石片との格闘が続いています。興味のある方は是非一度のぞいてみて下さい。

○平成13年度 発掘調査一覧

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積(m ²)	備考
札幌開発建設部	一般国道337号新千歳空港関連工事	チプニー-1 ■	千歳市	4,360	新規
		チプニー-2 ■		450	新規
室蘭開発建設部	一般国道36号登別拡幅工事	虎杖浜2	白老町	2,010	H11から継続
	日高自動車道厚真～門別工事	宮戸4	鶴川町	5,310	H12から継続
釧路開発建設部	一般国道44号根室道路工事	穂香竪穴群	根室市	8,000	新規
網走開発建設部	一般国道450号白滝丸瀬布道路改良工事	上白滝6 ■	白滝村	670	新規
		白滝3 ■		2,900	新規
		下白滝 ■		90	新規
		白滝遺跡群			整理作業
石狩川開発建設部	石狩川改修工事	対雁2	江別市	1,500	H11から継続
日本道路公団 北海道支社	北海道縦貫自動車道建設工事	野田生1	八雲町	8,476	H12から継続
		野田生2		2,186	H12から継続
		落部1		5,471	新規
		栄浜1	森町	21,700	H12から継続
		本内川右岸 ■		2,746	新規
		濁川左岸遺跡 ■		1,300	新規
北海道横断自動車道建設工事	キウス4	千歳市			整理作業
	ユカンボシC15				整理作業
札幌土木現業所	舞鶴追分線特改一種工事	ケネフチ9 ■	千歳市	320	新規
	柏木川改修工事	西島松5	恵庭市	3,123	H12から継続
		西島松9		1,800	新規
				合計	72,412

■ 掲載遺跡

○平成13年度 調査遺跡位置図



○平成13年度 発掘調査遺跡

しらたきむら しらたきいせきぐん 白滝村 白滝遺跡群

今年度は上白滝6・白滝3・下白滝遺跡の調査を行いました。上白滝6遺跡は平成10年度調査の本線部分に隣接した小面積の調査でしたが、良好な状態で石刃鋸石器群が発見されました。石刃鋸、石鋸、石刃、つまみ付きナイフなどがあります。土器は出土しませんでした。縄文時代早期の時期と考えられます。白滝3遺跡では槍先やナイフに使用した尖頭器、彫刻刀のように木や骨を削った彫器、用途は不明ですが舟の形をした舟底形石器などが、下白滝遺跡では縄文時代と考えられる石鋸などが出土しました。



包含層調査状況

もりまち にごりかわ きがんいせき 森町 濁川左岸遺跡

遺跡は森町市街地から約10km北西、標高37～45mの河岸段丘上に立地しています。海岸から700m内陸に位置し、調査範囲は濁川左岸の高い段丘と八雲側の無名の沢によって開析された一段低い段丘からなります。今年度は調査対象範囲4,500㎡のうち1,300㎡の調査を行いました。検出した遺構は住居跡15軒、ピット59基、焼土27カ所、小ピット176カ所です。

出土遺物は現在集計中ですが、10万点を超えることが予想されています。土器は縄文時代早期～後期、続縄文時代のものがあり、縄文時代中期のサイベ沢Ⅶ式から後期のウサクマイC式にかけての資料が多く見られます。



遺構調査状況

もりまち ほんないがわ うがんいせき 森町 本内川右岸遺跡

遺跡はJR森駅から北西に12km、標高44～48mの段丘上にあります。海岸線からの距離は300mです。

9月・10月に2,746㎡を調査しました。調査区域はもともと緩やかな起伏のある地形をしていましたが、中央の高い部分は農地の造成や土取りによって土器や石器の出土する層が削られており、遺構・遺物の出土はわずかでした。

調査区の南西部から土壌3基が検出されました。縄文中期前葉の土器が横倒しの状態で出土したのもありました。

土器の時期は縄文時代中期から後期前葉が主です。石器はスクレイパーやすり石などが出土しています。



土壌 P-3 遺構調査状況



包含層調査状況

ちとせ 千歳市 チプニー1遺跡 いせき

遺跡は、千歳市の市街地から北東へ約6 km、馬追丘陵の西側斜面を流れるチプニー川の左岸、標高約18～22mに位置しています。明治29年発行の地図では、河川名がチプエ(chip-e)となっており、船(chip)に関する地名であると考えられます。

調査の結果、Ⅲ層からアイヌ文化期の焼土2カ所、擦文時代の焼土26カ所、集石1カ所、また、Ⅴ層からは縄文時代の土壙3基、Tピット2基、焼土13カ所、炭化物集中1カ所が検出されました。遺物は縄文時代からアイヌ文化期までのものが約16,000点出土しています。内訳は土器が約14,000点、石器等が約2,000点です。擦文土器が約半数を占め、ついで縄文時代後期中・後葉と晩期後葉の土器があります。



包含層調査状況

ちとせ 千歳市 チプニー2遺跡 いせき

遺跡は、チプニー1遺跡の対岸にあります。今回の発掘調査では、縄文時代の焼土3カ所が検出され、約7,900点の遺物が出土しました。遺物の大部分は縄文時代晩期後葉のもので、土器片、石鏃、スクレイパーなどのほかに、矢柄研磨器(矢の柄を整形する道具)、微小な骨片があります。また、縄文時代早期・中期・後期と擦文時代の遺物も少量出土しています。



包含層調査状況

ちとせ 千歳市 ケネフチ9遺跡 いせき

遺跡は、千歳市の東隣にある追分町の市街地から西方に約4 km、チプニー1遺跡から東方約4.5kmの位置にあります。遺跡の北側に流れる剣淵川の語源「ケヌフチ」は、千歳市史によるとkene (-us) -put「ハンノキ(群生する)川口」という意味があるようです。調査の結果確認された遺構は土壙10基、Tピット4基、焼土2カ所です。出土した遺物は縄文後期と前期を主体としています。また早期の東釧路Ⅳ式もわずかですが出土しています。

◆交通案内◆

- ・ JR 大麻駅から、徒歩約20分 文京台小学校となり
- ・ 新さっぽろバスターミナル発
 - ・ JR バス・夕鉄バス (文教通西循環線)に乗り「くりの木公園前」下車、徒歩5分
 - ・ JR バス・夕鉄バス (江別方面行き)に乗り「道浅井学園大札学院大前」下車、徒歩15分